

事前課題一覧表：リーディングセミナー第17回（2025年11月5日実施）

戸谷洋志『詭弁と論破：対立を生みだす仕組みを哲学する』（朝日新書、2025）

氏名	Q1	Q2	Q3
衣笠 琳	誰に対してもの論破力での議論ではなく、互いを尊重しながら対話できる社交としての議論の回復を目指す。	p.42 ひろゆきの論破芸が人々をヘレニズム状態に落ち入れさせ、生きる希望を失わせていくよう作用する。p.115 重要なのは論破という暴力が発生することであるからだ。p.157 合意形成を可能にするあり方を「理性の公的な利用」と呼ぶ。	論破が持つ暴力性への指摘は、本書の中心的問題意識をもっとも端的に示していると思う。論破芸が広がると、人々は対話を恐れ、本来の理解や協働の可能性が失われる。著者が危険視する構造を最も深く示す部分だから。
平田 敬暉	現代社会では、相手を打ち負かすための「論破」をするのではなく、立場が違う人々が互いに「議論」を続けられる「社交」を取り戻すことが重要	①論破が、「議論」の場を壊し、対立を生む。論破は、相手を言い負かすことだけを目的とし、議論の本来の目的を見失ってしまっている。(p23~42) ②詭弁を批判するとき、自分自身も詭弁家になってしまう恐れがある。詭弁家を批判するときは、自分も詭弁家になってしまわないようにすることが重要。(p46~47) ③詭弁に対し、論破で立ち向かおうとすると、論破が繰り返され、議論が成り立たなくなる。(p54~65)	議論の場において、論破をしようとしている。それは相手を言い負かすことだけを目的としているため、議論の本来の目的が達成できなくなってしまう。例えば、国会にて、批判ばかりで敵対政党を言い負かそうとしているだけで、具体的な政策内容を話し合えていないことがある。このように、論破は議論の場を破壊している。本来の目的を見失うことを防ぐことが最も重要である。

氏名	Q4	Q5
衣笠 琳	社交とは具体的に何を指すのか、日常の議論場面でどのように実践すればよいか。 p.204	保育体験をしたとき、実際に三歳児同士の喧嘩で最初の方に記載されていた通り、それってあなたの感想ですよね、と論破した気になっている子がいてとても怖いと感じがります。この本を通して人間としての会話のあり方が学べました。
平田 敏暉	筆者は、社交を意識することで、詭弁に対抗できると述べていたが、実際に社交がどのような仕組みで詭弁に対抗できるのかがわからなかった。	私はこの本を読んで、現代社会の問題について考えさせられた。例えば、筆者は第5章で「断言的な言葉は思考を停止させる」と述べていた。これは、ソーシャルメディアで発信者が特定の考え方や思想、フェイク情報などを広めるときに、「これはこうである」などの口調で、断言しているのを見かけることがある。つまり、このような口調によって受け手の思考を停止させ、洗脳していると思った。そして筆者は、詭弁が蔓延する中で、それを防ぐために自らが詭弁家にならずに、社交によって詭弁に対抗し、議論を作ることができる環境を作ることが重要であると述べていた。これも現代社会の問題の1つだと思った。私もよく政治系の動画やコンテンツを見ることがあるが、1つの動画やコンテンツの内容だけを信用するのは危険であるということがわかったので、ソーシャルメディアのみの情報を信用せず、新聞や著書などのさまざま情報源から正しい情報を見極めたいと思った。当日のセミナーでは、参加者たちとさまざまな意見を出し合い、詭弁への対抗手段や現代社会の問題解決について新たなアイデアを出したいと思った。

質問項目

- ・ Q1. 課題図書を読み、本書において、著者がもっとも主張したい事柄を自分の言葉でまとめて下さい（50字程度）。
- ・ Q2. あなたが重要だと考えた箇所を3つ挙げて下さい（引用、要約どちらも可。ページ数を記載すること。行数は不要です）。優先順位の高い順に、記述して下さい。
- ・ Q3. Q2のうち、もっとも重要だと考えた箇所についてのみ、その理由をまとめて下さい（100字程度）。
- ・ Q4. 著者の主張のうち、理解できなかった点、納得できない点、よくわからなかった点などを一つ挙げて下さい（左記の各々について一つではありません。左記に関する事柄について、一つです。該当する箇所を特定できる場合はページ数を記載して下さい）。
- ・ Q5. 当日のLiveセミナーにおいて、参加者で自由な議論することを少し念頭に置きながら、この本の感想を自由に書いて下さい（最低100字。上限はありません）